

公明党オートバイ議員懇話会

全国オートバイ協同組合連合会 座談会

6月30日に衆議院第一議員会館にて公明党オートバイ議員懇話会と全国オートバイ協同組合連合会と二輪車の諸課題に対する座談会を開催いたしました。

出席者 北側 一雄（公明党オートバイ議員懇話会 会長）
伊藤 渉（公明党オートバイ議員懇話会 顧問）
大村 直幸（全国オートバイ協同組合連合会 会長）
吉田 純一（オートバイ政治連盟 会長）
進行 福井 二郎（オートバイ政治連盟）

土日祝日 ETC 搭載車 定率割引（普通車の半分）について

北側

- 初めて定率割引が実現されたことは第一歩であり大きな前進である
- 細部はこれからで年内に自公で会合を開き細部を詰めた議論を行いたい
- 大事なことはユーザーの方が利用しやすいことであり自民党と連携をとっていききたい
- 100km 超えの条件については使い勝手が悪い。距離が短くなるように取り組んでいきたい

沖縄県の二輪車左側通行帯走行規制について

大村

- 今年の3月に通行規制が一部区間解除されユーザーの方々も喜んでいる
- 沖縄に行った際に公明党の沖縄県連の事務所を訪問したが全員がそのことを理解されており素晴らしい

北側

- 沖縄県の規制について以前は知らなかったが、沖縄県議会選挙の時に A J 沖縄の宜野座理事長に同行して頂いた際に何回も要望を受けた
- その後、警察庁に強く申し上げたがあまり良い返事ではなかった。その後地元の県議会議員の皆さんに話を進めてもらった

大村

- そこが公明党の国会議員と地方議員の連携がなされているところでまさに公明党のチーム 3000 の力が身に染みてわかりました
- そうなっていくと地元の組合員の皆さんも親近感がわき選挙の応援の仕方も違ってくる

二輪車の駐車場問題について

吉田

- 原付以外を対象とする駐車場法には「二輪車を除く」と記載されており二輪駐車場設置の根拠法がなかったが、北側会長が国土交通大臣の時に素早く「街づくり三法」に関連させて駐車場法の「二輪を除く」を削除してもらった

北側

- 役所も二輪車のことに気が回らないので置き去りになってしまうことがある
- 我々は二輪車は国民の生活の足、経済活動の足と考えている。特に都市部における二輪駐車場については取り締まりを緩和するか駐車場を作るかのどちらでなければならない。都市部で一定の大きさの建物に対して二輪駐車場の設置を義務化していく条例を地方議員の皆さんと連携して取り組んでいきたい

キャッシュレスポイント還元について

吉田

- 令和元年 10 月からの「キャッシュレス・ポイント還元」に二輪車と二輪車関連用品を対象に入れてもらいありがたかった。車両購入の利用は少なかったが用品購入や修理に利用するユーザーが多かった

北側

- 自動車は車体課税の減税で対応したが二輪車についての対応は役所も自動車という枠で考えていなかった。私どもから A J に対応を持ち掛けた

軽自動車税の増税への対応について

吉田

- 平成 25 年の二輪車の軽自動車税の増税については北側会長には税率を当初案の 2 倍と 3 倍から 1.5 倍と 2 倍に抑えてもらい実施も軽四輪より 1 年後の平成 28 年 4 月からの実施に延期してもらった

北側

- 平成 25 年の年末の自公税制協議会は二輪車の軽自動車税課税だけが最後まで残り日程を 1 日延長して夜中までかけて決着した。施行の延長をもっと求めたが 1 年のみの延長をのんだ。その代わりに自公の税調会長名で「二輪車ユーザーの負担軽減」の覚書を結んだ

大村

- その覚書が数回にわたる二輪車 ETC 車載機購入助成金の 12 億円に繋がったと考えている
- 一旦組み立てられた中身を変えるのは大変なことであったと感謝している
- あの時も役所は軽自動車税の中に二輪車が含まれているとは考えていなかったようである

商品中古二輪車の軽自動車税の免税について

吉田

- 令和 3 年度から大阪市で免税が実施され感謝申し上げる

北側

- 都市郊外の市町村にとっては大きな財源になっている。しかし条例によって免税を可能にすることができるので市町村の議員と A J の各組合と連携をとってもらいたい。時間はかかるがしっかりと進めていきたい

今後の二輪車市場について

伊藤

- ご承知の通りコロナ禍の中で二輪車は三密の回避と云う事で見直されている。視点が変わると新たなニーズも発生する。脱炭素と云う事で内燃機関の二輪がなくなると云う話も流れている。大きなトレンドはそうだがそのような短絡的なことでもない
- 海外の経済的に発展できていない国にとっては二輪車が必要であり日本

の二輪車の信頼性が高い。二輪車が先兵となり日本製品全般の信頼性が高くなっている。

- しかし国内に目を転じると二輪車はまだ危ないというイメージを拭えていない。このイメージをどうやって変えていくのか。二輪の良いところは何かという事を考えて新しい流れを作っていくのが私達に託された仕事だと思う

大村

- 脱炭素はゆるやかな技術革新でシフトしていく必要がある。あまり先導していくとエンジン技術をなくしてしまい戻れなくなる可能性がある。日本の将来において小さい乗り物が国民の足として残ってどのように使われていくのかを生活実態を基に考えていく必要がある
- 生活実態を基に考えないと売れなくなり日本の市場は未来がないからと生産をやめていく状況になる。二輪車をはじめとした乗り物がどのように利活用をされているのかという会議体や勉強会を行わないと各論だけを対処していくレベルではなくなった。そこに電動化の流れも来て二輪車に関わっている人たちが不安になっている
- 国民の足である小型バイクをほったらかしにしていくと、やがて国民の足としての二輪車は消えてしまい趣味としての二輪車しか残らない

北側

- 日本にとって自動車産業は大事な産業であり下請けメーカーも沢山あり日本経済そのものである。しかしながら二輪車は置き去りになることも多い。その中で二輪車の役割と意義を忘れずにしっかりと議論していかなくてはならない

オートバイ政治連盟 吉田純一会長

- 公明党所国会議員 56 名の内オートバイ議員懇話会所属議員 51 名でほとんどの国会議員の方が所属されている
- 国会議員と地方議員の連携が密で情報が共有されているので地域の課題も国政に上がってくる
- 平成 25 年より年一回全国で「政策要望懇談会」を開催し二輪車業界からの要望を行っている
- 各地域の A J 組合とも年一回「政策要望懇談会」を開催し各地域独自の要望をおこなっている

- 今秋に行われる衆議院議員総選挙に対しては大阪 16 区の北側先生、東海比例区の伊藤先生をはじめとした公明党の先生方へのへのご支援をお願いしたい。

北 側 一 雄 先生のプロフィール

- 年齢 68 歳 (1953 年生まれ)
- 選挙区 大阪 16 区 (堺市北部)
- 当選回数 9 回
- 主な役職 公明党 副代表
オートバイ議員懇話会 会長

伊 藤 涉 先生のプロフィール

- 年齢 51 歳 (1969 年生まれ)
- 選挙区 比例東海
- 当選回数 4 回
- 主な役職 財務副大臣
オートバイ議員懇話会 顧問